

●学生の自由な発想で

司会 この運動を始めるきっかけは？



木村 水葉さん
北海道教育大学札幌校4年生

木村(水) 私たちの大学では、三年生に総合演習という講義があります。これは、小・中学校、高校の授業で行っている「総合的な学習の時間」の指導法を体験的に学ぶ科目

ですが、私たちのグループは高齢者問題を研究課題として取り上げました。高齢者の方が日常生活上、不便に思っていることや困っていることを調査し、具体的な解決策を提案するという内容です。実際に高齢者の方に対して聞き取り調査を実施した結果、買い物などの外出時や散歩のときに気軽に休めるところが少ないという意見がありました。そこで、少しでも気軽に外出できるようなアイデアを練りました。試みの場として新琴似中央商店街を選んだのは、北区の中で老年人口の割合が高いことと、商店街が比較的大きく活発であることなどが理由でした。商店街に初めて相談したときは不安でいっぱいでしたが…。

司会 学生から、今回の企画を提案されたときの印象はどうでしたか？



寺本 正司さん
新琴似中央商店街振興組合 理事長

寺本 内容はとても良いと思いましたが、学生の皆さんから提案があったときは、ぜひ挑戦してみなさいと率直に伝えました。若い人たちが、自分でやりたいと思っていることや熱意を町内会や商店街に伝え、実行に移すことが何より大切だと思います。その動きを商店街が応援することで、相乗効果が生まれてくるはずですよ。

●商店街活性化のヒント

林 商売を続けていく上で、お客様に親切な態度で接することは最も基本的なことです。寺本理事長から今回の協力を求められたときには、す

ぐに賛同しました。休憩スペースやベンチの設置場所などの物理的な条件はクリアできるし、何より同じ町内に住む人たちが、顔を合わせることでコミュニケーションを深めることに意義を覚えました。私どもの店舗を足掛かりとして、利用の輪が広がることになればと期待しています。

寺本 これは、個人的な考えですが、今後、休憩ベンチを歩道に設置したいと考えています。この周辺には休む場所が一つもない。お年寄りは周りが思う以上に疲れるものなのです。お年寄りに優しい、親切なまちづくりの中に商店街を活性化するヒントがあると考えています。

区長 商店街の歩道に休憩スペースを設ける身近な例では、大通地区の「さつぽろプロムナード」があります。一定期間オープンカフェを行い、市民や観光客に札幌の美しい街並みを楽しんでもらう取り組みを始めています。六カ所の歩道にベンチを十二台設置し、通行人が腰掛けて、のんびりと街の雰囲気味わってもらおうという試みで、評判が良いと聞いています。他の地域での事例はご存じですか。

●経塚

全国的には大型店舗進出の影響により、昔からある商店街の集客数が減ったり、空き店舗が増加したりということがあると聞いています。商店街と学生が協力して空き店舗を利用した休憩スペースをつくり地域の人たちが交流することで、結束力を強めている例もあるようです。



経塚 麻美さん
北海道教育大学札幌校4年生



◀「ほっとひといきベンチ」を置いている店舗の目印

◀「ほっとひといきコーナー」がある店舗の目印

●区内の老年人口割合

	老年人口割合(%)
篠路町篠路	31.5
東茨戸1条・1丁目 東茨戸2条・1-3丁目 東茨戸(番地)	27.7
屯田1条・1-2丁目 屯田2条・1-5丁目 屯田3-4条・1-6丁目	25.5
新琴似8-12条・7-13丁目	22.5
新琴似2-7条・7-13丁目	22.4
新川2-4条・7-13丁目 新琴似1条・7-13丁目	21.8
篠路1-2条・1-8丁目 篠路3-4条・1-7丁目	21.0
篠路町福移	20.4
新琴似8-12条・1-6丁目	20.4
北区全域	17.5

※老年人口割合…65歳以上の方の地域人口に占める割合
※老年人口割合が20%以上の地域のみを抜粋
※濃い網掛け部は、今回取材をした新琴似中央商店街がある地域
※市民まちづくり局企画部統計課資料引用(住民基本台帳人口に基づく・平成18年7月1日現在)